

# μετάνοια

## メタノイア

知っておきたいキリスト教のことば (34)

回心 かいしん

「かいしん」という言葉だけ聞くと、わたしは「改心」という漢字が頭に浮かびます。「改心」の意味を辞書で調べますと、「今までの行いを反省し、心を改めること」というように書いてありました。

しかし聖書で「かいしん」と言われる時には、それは「回心」のことを指します。それではこの「回心」とは、どのような意味を持つのでしょうか。

新共同訳聖書を見ますと、旧約聖書の中で「回心」という言葉が出来てくるのはネヘミヤ記 9 章 26 節だけです。そして新約聖書では「回心」という訳では一度も出ず、「悔い改め」と訳されることが多いようです。

この「回心」は、使徒言行録 9 章 1～19 節に出てくる「サウロ(パウロ)の回心」という物語を見ると、どのようなことがわかってきます。

サウロは当時、ファリサイ派の律法学者としてキリスト者を迫害していました。しかしダマスコという場所に行く途中、天からの光に照らされ、復活の主に出会います。それ以降彼は、イエス様に従う者となったのです。

キリスト者を迫害する者から、キリストに従う者へと変わった。このことは単に心を改めただけではなく、生き方そのものが方向転換させられています。これが「回心」なのです。

神さまから離れていった人が、神さまに立ち返ること、聖書の中では他にも「放蕩息子のたとえ」などがその様子を語ります。

あなたの「回心」は、どのような物語でしたか。もう神さまと出会い、神さまに向き直って歩んでいますか。

次回は「外典」です。お楽しみに。



「パウロの回心」

ピエトロ・ダ・コルトーナ (1596～1669 年)

すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。

(使徒言行録 9 章 18～19 節)

